



30度を上回る日々が続くようになりました。体調にはくれぐれもお気を付けください。

鳥取県智頭町では、ある外来魚が増えており駆除が行われています。近年では、夏になると釣り大会も開催されているようです。一体どんな魚なのでしょう？

鳥取を脅かす茶色い鱈？

その正体はブラントラウトという大型のサケ科魚類で、緑がかった茶色の体に赤や黒の斑点があるのが特徴です(図1)。原産はヨーロッパから西アジア周辺ですが、世界各地に定着し国際自然保護連合(IUCN)が定める「世界の侵略的外来種ワースト100」や日本生態学会が定める「日本の侵略的外来種ワースト100」に選定されています。日本には1980年頃に持ち込まれたとされ、鳥取県では智頭町の三滝ダム周辺でのみ生息が確認されています。智頭町に持ち込まれた時期や経緯は明確ではなく、スポーツフィッシングの広まりと共に放流されたのではないかと考えられています。

では、ブラントラウトによってどのような影響が与えられるのでしょうか。まず1つ目は捕食です。ブラントラウトは貪欲な肉食性で、魚類や甲殻類・昆虫など在来の生物を食べてしまいます。共食いもするため、増えたブラントラウトが増えたブラントラウトを食べて生息数がより増加する可能性があります。2つ目は競合です。在来の生物たちと生息環境やエサ(水生昆虫など)が共通しているため、在来の生物たちが利用できたはずの生息環境やエサが減ってしまいます。また、縄張り争いにも強いようで同じく縄張りを持つイワナを追いやってしまいます。3つ目は繁殖の阻害です。ブラントラウトは在来の溪流魚と繁殖時期や場所が同じであり、溪流魚が利用できたはずの繁殖環境が減少してしまいます。また、イワナと交雑する可能性もあり、生まれてくるイワナが減ってしまいます。4つ目は漁業被害です。溪流魚は釣りの対象として人気であり、食用にもされるため水産的にも価値があります。しかし、ブラントラウトは前述のような影響を与え、溪流魚を減少させる一因となっています。

このようにブラントラウトの影響は多岐にわたり、生息する魚類がブラントラウトばかりになってしまった地域もあるようです。智頭町では自治体や千代川漁業協同組合などが協力して駆除を行っています。駆除では電気ショッカー(図2)で電気を流し、魚を一時的に麻痺させて捕まえます。これが約15kgと非常に重く、胴付長靴を履いて、足場の悪い上流を練り歩くため、かなりの重労働になります。さらに漁協の方の高齢化も拍車をかけており、駆除が追いつかないようです。そこで、千代川漁協と智頭町観光協会が連携して一昨年からは駆除を兼ねた釣り大会を開催しています。その名も「ブラントラウトダービー」です。この大会では大物賞と大漁賞が設けられており、大会期間中それぞれの賞をめくり競います。昨年の大物賞1位は50.5cm(図1)、大漁賞1位は105匹という結果で、大会に持ち込まれた個体数は合計で174匹にもなるそうです。第3回となる今年も開催され、既に40cmの大物が釣り上げられているようです。大会の詳細は智頭町観光協会HP(<https://chizukankou-kurashiya.jp/news/r100/>)をご覧ください。



図1. 2023 ブラントラウトダービー大物賞の個体
出典:千代川漁業協同組合HP



図2. 灰色のものが電気ショッカー
黄色い棒とワイヤーから電気が流れる

山陰海岸ジオパーク内の外来種の影響

外来種は、山陰海岸ジオパーク各地でも影響を与えています。

山陰海岸ジオパークの目玉の一つである鳥取砂丘(図3)では砂丘・砂浜に適応した在来の植物などが生息していますが、これらの植物は海岸侵食や外来種の侵入によって県内でも生息地が減少しており、鳥取砂丘は重要な生息地の一つとなっています。しかし、砂丘でも外来植物が増加し、在来植物の生息環境が減少、砂丘を覆うことで景観を損ねるといった影響がありました。そこで鳥取県は毎年ボランティアを募り除草を行っており、除草量は年間7トンにも上ります。

鳥取砂丘付近にある多鯰ヶ池(図3○)は、砂丘によって山のくぼ地がせき止められてできた閉鎖的な環境であるため、貴重な生態系が形成されていた可能性がある場所です。この池はバス釣りを目的とした利用者も多いのですが、ブラックバス(図4)は在来の魚などを食べてしまいます。この池ではミナミアカヒレタビラ(図5)という希少な魚が生息していましたが、ブラックバスの侵入により現在では絶滅したとされています。また、この池はスイレン(図6)が咲き誇る景勝地としても利用されていますが、スイレンも外来種であり増えすぎると水面を覆いつくし、水生植物が光合成できなくなる可能性があります。そうすると、水生植物の生育も阻害され、水中の酸素も減り水生生物も生息できなくなってしまいます。



図3. 鳥取砂丘と多鯰ヶ池(○)
出典: 国土地理院空中写真(2021年撮影)



図4. ブラックバス
出典: 鳥取県漁業調整課HP



図5. ミナミアカヒレタビラ(在来種)
出典: レッドデータブックとっとり



図6. スイレン
出典: 鳥取砂丘レンジャー日記

岩美町の又助池は、カキツバタ群落で知られ、春になると一面が紫の花に覆われ非常に見ごたえのある景色を見ることが出来ます(図7)。ここでは、カキツバタに似たキショウブ(図8)という黄色い花を付ける外来植物が侵入しています。キショウブは地下に茎を伸ばすため駆除が難しく、カキツバタを始めとしたアヤメ属植物と交雑してしまう可能性もあるため問題視されています。生えているキショウブは少数ではありますが増えてしまわないよう注意が必要です。

貴重な在来の生物たちが安心して暮らせる環境を守るため、外来種の根絶は非常に難しいですが継続的に駆除を行い、生息数を抑えることで少しでも影響を減らすことが求められます。(久野)



図7. カキツバタ(在来種)



図8. キショウブ
出典: 国立環境研究所 侵入生物データベース

【参考】井田 齊・奥山 文弥 (2017) 改訂新版サケマス・イワナのわかる本 株式会社山と溪谷社
千代川漁業協同組合HP 2023智頭町プラウトラウトダービー結果発表 <https://www.sendai-n.com/news/2288/>
平成25年度鳥取県栽培漁業センター成果報告書 https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1028279/3.naisuimen_keiryuugyo.pdf

海と大地の自然館 今後のイベント

- 7/19(金) 磯の生き物観察会 受付中 7/5まで
- 7/27(土) 磯の生き物観察会 受付中 7/13まで
- 8/2(金) シュノーケルでウミウシ観察 申込: 7/19~
- 8/3(土) ジオパークヨット体験クルージング 申込: 7/6~

詳細はこちら→



磯の生き物観察会・ヨット体験は
とっとり電子申請サービスにて受付